

基幹システムで着実に実績を伸ばす EDB Postgres

豊富な機能と柔軟なライセンスモデルで企業のニーズに対応
Oracle DBとの互換性の高さを活かした移行支援サービスを提供
IBM Power Systemsとの組み合わせでシステムリソースを柔軟に活用

大きな波紋を呼んだOracle DBのライセンス問題

2016年1月30日に日本オラクル株式会社(以下、Oracle)が発表した、データベース(DB)ソフト「Oracle Database(以下、Oracle DB)」のライセンス体系の変更はユーザの間で大きな波紋を呼びました。

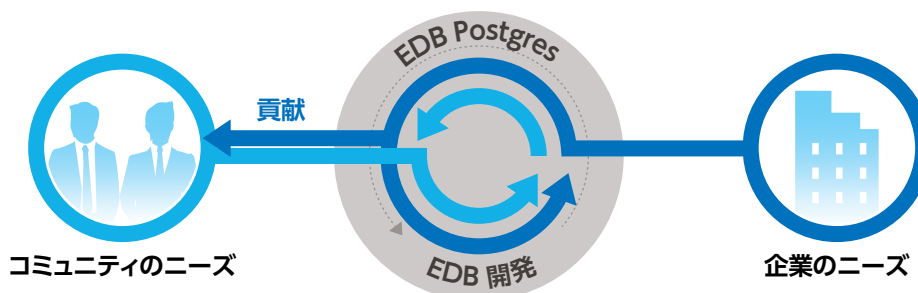
特に、中小規模システム向けで安価な「Standard Edition One(SE1)」を廃止し、「Standard Edition(SE)」のライセンス内容を変更した「Standard Edition 2(SE2)」に一本化すること、さらに、同年の2月29日に旧ライセンスであるSE1とSEの販売を終了し、3月1日からSE2と大規模システム向けの「Enterprise Edition(EE)」だけを販売するという発表は、日本市場で衝撃を持って受け止められました。

SE1のユーザがSE2に移行する場合、DBの機能が高まる一方で、保守料がアップすることが大きな問題となりました。SE1は国内において中小規模のサブシステムなどで多数導入されているため、その影響範囲の広さとコストの大きさから、ユーザの大きな不満を生む原因となっています。

また、クラウドコンピューティング向けのライセンス体系の変更、ライセンス費用を判定する際に利用する「マルチコアプロセッサ向けの適用係数」の変更などのハードウェア制限もあって、ライセンス費用と保守料の負担が、システムの成長と共に年々増加することが課題になっています。

このような流れの中で、仮想化基盤、クラウドサービスを利用する企業の基幹業務のニーズを満たすDBとして、EDB Postgresを採用する企業が増加しています。

企業向けDBの新たなスタンダード：EDB Postgres



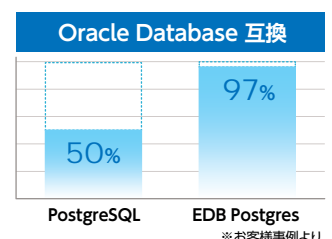
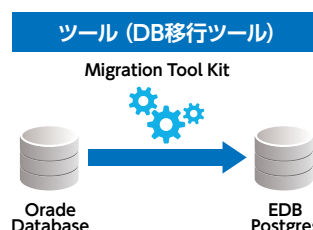
PostgreSQL開発コミュニティの主要コミッタが在籍し、開発

EDB Postgresは、PostgreSQLをエンジンとして、企業の基幹業務用に必要な機能やツールを実装したDBで、開発元であるEnterpriseDB社(EnterpriseDB)は、2004年に設立されて以来、オープンソースのPostgreSQLをベースにした企業向け製品および付随サービスを提供しています。

EDB Postgresでは、企業システムに必要な機能がオールインワンで提供されています。性能障害のボトルネックを簡単に特定できるチューニング機能や監査ログの個別管理、行単位のアクセス制御などのセキュリティ機能も備わっており、ミッションクリティカルな運用が求められるシステムでの採用が増えています。

PostgreSQL開発コミュニティの主要構成メンバーが数多く在籍しているエンタープライズDB社は、コミュニティからの要望を吸い上げてDBのコア機能を改善するなど、コミュニティや顧客企業の声をダイレクトに製品開発に反映しています。

EDB Postgresが支持される理由のひとつにOracle DBとの互換性に優れている点が挙げられます。EDB Postgresは、「レンジ」「リスト」「ハッシュ」をサポートするパーティション機能をはじめ、SQLやPL/SQL構文によるプロシージャやファンクションなどOracle DBとの高い互換性を有し、Oracle DBからの移行において既存プログラムの改修コストを大幅に抑えることができます。また、Oracle DBやその他の主要DBをEDB Postgresへ簡単に移行できるツールが標準で提供されています。



EDB Postgresが選ばれる理由

1 クラウド環境、仮想環境に最適な柔軟性の高いライセンス体系

クラウド環境や仮想環境でEDB Postgresを利用する場合に必要なライセンスは、DBサーバに割り当てられたコアのみが対象になります。物理サーバのCPU数の影響を受けることなくシステム構成に則したライセンス購入が可能のため、ライセンスコストを抑えることができます。

2 企業システム向けの豊富な機能をオールインワンで提供

EDB Postgresでは、Oracle DBのEnterprise Edition相当の機能がオールインワンで提供されています。クラスタウェアをはじめ、コマンド1つで複数DBのバックアップ取得／管理ができるバックアップツール、性能監視や周辺システムとの連携ツールなど、DB運用に必要な機能が集約されています。オプションなどの追加コストが発生しません。

3 24x365の万全なサポート体制

EDB Postgres利用のお客様には、メーカーであるエンタープライズDB社による24時間365日の万全なサポートを提供しています。オープンソースでは対応が難しい製品の機能拡張や不具合パッチの提供など、システムの安定稼働を強力に支援します。

IBM Power Systems EDB Postgresが実現する柔軟性・拡張性

通常、業務システムのためのサーバを選ぶ際は将来の拡張性を考慮するため、ギリギリの性能のサーバを選択することは稀です。また、下位モデルのサーバであっても、CPUコア数は十分すぎる人が多いのではないのでしょうか。そのため、コア数を引き下げることや、DB用の専用サーバで運用することなど、DBのライセンス費用を節約するような動きが見られるようになりました。しかし、AIやIoTの普及に伴い中長期的にはデータ量が爆発的に伸びることが予想される現在において、このような考え方は適切なのでしょうか。

IBM Power Systemsでは、PowerVMにより、CPUコア、メモリを仮想的に区切って自由に使えるようになっています。しかも、IBM Power Systemsでは、ハードウェアレイヤーに実装しているため、オーバーヘッドが無く、ITリソースをフルに活用できるという大きな利点があります。また、トランザクション量の変動に対応する柔軟性の高い従量課金制があります。

CUoD (Capacity Upgrade on Demand)

ビジネスの成長に合わせた従量課金を可能にします。例えば、CPUに5コア追加したい場合には、キーを入力するだけで、作業無しでコアの追加が可能になります。

*一部モデルのみ対応

Elastic CoD (Elastic Capacity on Demand)

期末の処理の時だけコアやメモリを増やしたい、その後は元のコア数に戻したいといった場合にも、一日単位での従量課金を可能にします。

*一部モデルのみ対応

Power Enterprise Pool

予め登録されたサーバ間でコアやメモリを移動できる仕組みです。期末処理のためなどに、開発機のコアを一時的に本番機へ移動することも可能です。

*一部モデルのみ対応

IBM Power SystemsとEDB Postgresを組み合わせれば、ライセンス費用を削減するために無理にダウンサイジングする必要はありません。既存のITリソースをフルに有効活用することができます。

Oracle DBからEDB Postgresへの移行アセスメントサービス

移行アセスメントサービスは、既存システムで稼働するOracle DBをEDB Postgresへ置き換える場合の移行難易度を多面的に判断するサービスです。EDB PostgresはOracle DBとの互換性が高いため、多くの企業が移行を検討／推進しています。しかし、同時に以下のような不安の声もあります。

- *EDB Postgresでどの程度の要件を満たせるのかわからない
- *EDB Postgresに移行できるデータベースがどの程度あるのかわからない
- *EDB Postgres導入によるコストメリットが見えない

移行アセスメントサービスによって、システム全体におけるEDB Postgresへ移行可能な業務システムの割合を把握し、コスト削減効果の試算精度を高めることができます。また、アセスメントの結果からEDB Postgresに対する理解が高まり、EDB Postgres移行への疑問や不安を払拭できます。

Power SystemsとEDB Postgresをワンストップで提供するAIT

AITは、業務システムの検討、ハードウェアの導入とシステム構築から運用までをトータルにサポートします。DBに関するスキルの高いSEと経験豊富なコンサルタントが、お客様の業務負荷を軽減し、お客様が本来の業務に集中できるよう支援体制を整えています。AITは、仮想化、サーバ集約などのIT基盤構築のプロフェッショナルとして、きめ細かいサービスにより、お客様のコスト削減と業務の革新を強力にご支援します。

当ホワイトペーパーに記載された内容は、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。また、記載された会社名や製品名は、各社の商標や登録商標です。

— お問い合わせ



株式会社

AIT

産業営業本部 産業営業部

<http://www.ait.co.jp>

【本社】

〒135-0031 東京都江東区佐賀1-5-6永代OTビル

Mail: eigyou-s@ait.co.jp

Tel 03-5245-7772 / Fax 03-5245-5752